産業人クラブだより ―かけはし―

トップインタビュー

神奈川産業人クラブ副会長（川本工業社長）川本 守彦 氏

神奈川産業人クラブ副会長で、川本工業（横浜市中区、045・662・2021）社長の川本守彦氏は、空調設備や給排水設備工事を主力とする横浜の老舗企業を率いる。東日本大震災の復興と老朽化インフラの改修が進む中、業界と同社をめぐる情勢を聞いた。（横浜・米今真一郎）

◇

―安倍晋三政権発足後の産業界をどう見ていますか。

「政権が変わって為替は、それまでのいきすぎた円高が是正されてきたが、『早々に輸出が好調になるのでは』と言われても、机上で考えるより現実はシビアではないか。これまでのにいくのかどうか。一朝一夕に良くなるのではなく、もう少し慎重に見る必要がある。ただ、『病は気から』の例えではないが、景気に対するマインドがプラスになってきているのは良い」

円高是正も現実はシビア 景気マインドはプラスに

―川本工業をめぐる環境は。

「東日本大震災の被災地域である東北地方のインフラは、想像以上にまだまだ整っていない。加えて、震災を経てエネルギー政策が大きく変わった。単に建物と空調などの設備を再度作るのではなく、省エネルギーや新エネルギーの活用など、業界全体で新しいニーズを創出する必要がある。請負と書いて『請け負け』ではなく、『請け勝つ』業に脱皮していかなければならない」

―業界内での川本工業の位置も変わってきました。

「国内建設投資というパイが減っているために、業界内で自分たちの土俵を広げる動きが目立つ。例えば、空調や給排水設備の改修と言っても、最新の省エネ技術で作り替えた方が投資回収を早くできる案件がある。この場合は配管や間仕切りを変える必要があり、建築物自体の改修や建て替えまで及ぶ。もともと専門工事業だった当社が、建築部分を受注して他社に発注する案件が生まれている」

「ファイナンスまで目を配る案件もあり、顧客のニーズをくみ上げ、全体構想を作るようになる。業界を見渡すと、当社を含むサブコンがゼネコン化し、従来のゼネコンがサブコン化している」

―産業人クラブに対する期待は。

「製造業の人が多い印象を受ける。『産業人』だから、いろいろな分野の企業の参加を募りたい」

歴史的な円高で輸出産業に関わる企業は生産ラインをかなり見直しているし、中国などに出て行ったところもある。生産を増やそうとしても生産活動がスムーズ

かわもと・もりひこ　78年（昭53）慶大経卒、同年横浜銀行入行。81年川本工業入社、85年取締役、87年常務、90年副社長、95年社長。07年神奈川経済同友会理事。12年横浜商工会議所副会頭。神奈川県出身、57歳。

産業人烈伝

〝深海魚族〟のごとく

ツクバリカセイキ・中山俊明社長 ㊤

「深海に生きる魚族のように、自らが燃えなければ何処にも光はない」―。1月に亡くなった映画監督の大島渚さんが座右の銘としていたこの言葉を受験生だった50年近く前に深夜番組で聴いた。今も自分の行動の原点にこの言葉がある。

大学の受験勉強をしていた1960年代半ばは、化石燃料にいずれ限界が来るといわれた時代。だがその頃、次世代エネルギーとして、太陽の内部で起きる核融合反応を地上で作り出せれば、人類は無限のエネルギーを入手できることを知った。有限と思われたエネルギーが無限に変わり、人々から不安が取り除かれた時、人々はどう変わるのか、または変わらないのか。これを生涯の目標にしようと決め、大学の門をたたいた。

大学で選んだのは核融合の基礎となるプラズマ物理学だ。電磁流体の一種のプラズマがどんな動きをするかを解明することで、核融合発電に近づこうと考えた。就職先には学部、大学院生時代ともに核融合の研究ができる原子力研究所（原研、現日本原子力研究開発機構）を選んだが、1度目は体調不良、2度目はオイルショックの頃で、新規採用の募集が行われず、自分の立てた人生設計が早くも頓挫し、挫折感を味わった。

それでも自分が最初に立てた最終目標からぶれないことが大事だ。当面の目標は次の目標の手段になる。触媒メーカーのベンチャー企業に就職後、大学で学んだ流体力学の知識を生かそうと、当社の前身である理化精機工業（東京都千代田区）に入社。流体試験装置の販売会社で技術設計に携わった。

ちょうどその時、筑波研究学園都市の建設に向けて、研究機関が相次ぎ茨城県つくば市に移転していたため、「原研の仕事にもっと携わりたいから出張所をつくってほしい」と社長に直談判。社長も研究機関の新規需要が狙えると判断し、茨城県土浦市に出張所を設け、そこを職場とした。

数年後、技術屋として自分に自信が持てるようになった私は、出張所を会社組織にして、そこに残ることを決意。理化精機工業をいったん退職し、フリーの設計者としてツクバリカセイキを立ち上げた。35歳の春のことだった。

（茨城県つくば市要212）（全3回）

回り道をしたことで自分の夢に携わることができた…と中山さん

小さくても本物

九州・山口 日本タングステン 〝リボン〟医療で活躍

日本タングステン（福岡市博多区、馬場信哉社長、092・415・5500）はハロゲンランプ用のタングステンワイヤや電気・電子材料、超硬合金材料などのメーカー。製品は部品になることが多い。その中で同ワイヤは白熱電球のフィラメントになるほかコピー機のランプにも使われる身近な材料だ。同社は80年以上にわたる製造の歴史を持つ。

そのようなワイヤの派生品として2006年に開発したのが薄板の「タングステンリボン」だ。タングステンは熱に強い特徴を持つ一方、加工が難しい素材で、もろい面も持つ。そのため「ガラスのリボンを作るようで、作るのが難しく厚さ1ミリメートル以下のような薄板の製造はできなかった」（同社）という。

日本タングステンはワイヤで培った製造技術を背景にリボン専用の原料や圧延の技術を確立。厚さ5マイクロメートル―20マイクロメートル（マイクロは100万分の1）、幅40マイクロメートル以下のリボン状にすることに成功した。大きな物では厚さ0.25ミリメートル、幅4ミリメートル程度でも製作できる。電解研磨で表面を滑らかにしたり光沢を出したりする仕上げ加工やメッキも可能だ。

タングステンが持つエックス線の遮へい能力を生かし、医療機器などに使われ始めた。ワイヤ状に比べて同じタングステンの使用量でより広い面積が出せる。そのためレアメタルであるタングステンの省資源になる。今後はタングステン以外の素材に張り付けて使われることも見込んでいる。

厚さ5マイクロ―250マイクロメートルのタングステンリボン

トピックス

多摩 京西テクノス 展示会で新人研修

「修理・サービスの専門会社でーす」。

展示会の会場で熱心に来場者を呼び込むのは、京西テクノス（東京都多摩市、042・303・0888）の臼井努社長（多摩産業人クラブ会長）。1月16―18日に都内で開かれた「ネプコンジャパン」での一コマだ。

今回はひな壇の向かいの好位置に出展し、ブースに大型の発光ダイオード（LED）ディスプレーを取り入れるなど装飾にも工夫を凝らした。連日、社員12、3人を動員し、このうち3人は新人研修の一環で新入社員を派遣した。

臼井社長は「展示会は直接、お客さまとフランクに話をできるいい機会。現場での悩み、ニーズが分かるのは大きな財産となる。新人教育にもってこいだ」と強調する。

全体を見渡して、お客さまへの対応が遅ければ「○○君、説明をお願いします」と間髪を入れず接客を促す。

時には自らが呼び込みも行う。「私がやれば、彼らも自然と声が出てくる」といい、新人の良き手本になるよう声を張り上げる。体育会出身らしく、会場にはひときわ大きな声が響いた。

会場で接した新規の訪問客は初日が150人、2日目が210人、最終日が322人と前年より大幅に増えた。臼井社長にとってはビジネスの成果だけでなく、一緒に汗を流した新人社員らの今後の成長も大きな楽しみとなりそうだ。

自らも呼び込みをする臼井社長㊧

2―3月の予定

【2　月】

◇**1日（金）千葉産業人クラブ**「新春経済講演会・賀詞交歓会」講師：千葉銀行頭取・佐久間英利氏（千葉市中央区、三井ガーデンホテル千葉）

◇**4日（月）栃木産業人クラブ**「2013年賀詞交歓会」（宇都宮市、ホテル東日本宇都宮）

◇**5日（火）宮城産業人クラブ**「2013年新春講演会・交流会」講師：東北経済産業局長・山田尚義氏、演題「東北経済の発展にむけて」（仙台市青葉区、ホテルメトロポリタン仙台）

◇**5日（火）宮城・山形・福島・いわきの各産業人クラブ**「キャンパスベンチャーグランプリ東北表彰式・記念パーティー」（仙台市青葉区・ホテルメトロポリタン仙台）

◇**5日（火）茨城産業人クラブ**「経済講演会・賀詞交歓会」講師：常陽銀行頭取・寺門一義氏、演題「常陽銀行の事業戦略と人材育成」（水戸市、水戸京成ホテル）

◇**5日（火）九州・山口産業人クラブ**「新春交歓会」（福岡市博多区、ホテルオークラ福岡）

◇**6日（水）群馬産業人クラブ**「新春講演会・賀詞交歓会」（前橋市、前橋商工会議所会館）

◇**7日（木）長野産業人クラブ**「新春講演会」講師：ティーケーアソシエイト会長・津上健一氏、演題「事業変革で新たな活路を拓く」（長野市、ホテル国際21）

◇**8日（金）埼玉産業人クラブ**「2013年新春賀詞交歓会、新春経済講演会」講師：東京大学教授・石川正俊氏（さいたま市中央区、ラフレさいたま）

◇**13日（水）埼玉産業人クラブ**「分科会」（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局会議室）

◇**14日（木）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会**「つくば方面への施設見学」（茨城県つくば市、サイバーダインスタジオ、筑波宇宙センター）

◇**15日（金）山形産業人クラブ**「新春講演会と新年例会」（山形県上山市、日本の宿「古窯」）

◇**19日（火）新潟産業人クラブ**「社長会・講演会」講師：自衛隊新潟地方協力本部長1等陸佐・吉田賢一郎氏、演題「東日本大震災から学ぶ自衛隊の組織力とリーダーシップ」（新潟市中央区、NEXT21・新潟IPC財団ビジネス支援センター）

◇**20日（水）―24日（日）日本産業人クラブ連合会**「ミャンマー産業視察ツアー」（ヤンゴンと周辺の工業団地など視察）

◇**20日（水）―26日（火）埼玉産業人クラブ**「海外視察会」（ミャンマーとタイの産業視察）

◇**21日（木）岐阜産業人クラブ**「新春経済講演会＆懇親会」（岐阜市、岐阜グランドホテル）

◇**22日（金）福島、いわきの両産業人クラブ共催**「福島復興産官懇談会」テーマ：「産業復興、再生を目指す福島県（仮題）」（福島市、ホテル福島グリーンパレス）

◇**26日（火）大阪産業人クラブ**「セミナー」講師：NPO産業人OBネットアドバイザー・村尾邦明氏、立神工業社長・伊藤武将氏、演題「信頼を得るための提案型設計のポイント」（大阪市中央区、日刊工業新聞社大阪支社10階）

【3　月】

◇**6日（水）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会**「じっくり訪問シリーズ第19弾、いかにビジネスを発展させてか―オヤジから学ぶシリーズ第23弾」（埼玉県川口市、辻井製作所）

◇**11日（月）―12日（火）新潟産業人クラブ**「多摩産業人クラブとの交流会・工場見学」、11日＝佐文工業所見学（新潟県江南区）、懇親会・月岡温泉　ホテル清風苑（新発田市）、12日＝THK新潟見学（阿賀野市）、燕市産業資料館見学

◇**12日（火）―16日（土）大阪産業人クラブ、名古屋産業人クラブ共催**「マレーシア産業視察」（クアラルンプール、マラッカ、ジョホールバルの企業などの視察）

◇**13日（水）埼玉産業人クラブ**「分科会」（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局会議室）

◇**13日（水）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会**「親睦ゴルフ大会」（埼玉県嵐山町、嵐山カントリークラブ）

◇**18日（月）―19日（火）群馬産業人クラブ・ハイテク部会、前橋市異業種交流グループ共催**「先端企業技術見学会」（福島県内の製造業2社の視察など）

◇**22日（金）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会**「第57回親睦ゴルフ大会、大川理事長米寿記念」（千葉県野田市、紫カントリークラブすみれコース）

野村会長の社長退任セレモニー

取引先・タイの大臣ら出席

東京産業人クラブ会員の南武（東京都大田区、野村伯英社長、03・3742・7377）は1月17日、1月に社長を退いた野村和史会長の社長退任セレモニーを横浜市中区のホテルニューグランドで開いた。会場には取引先やタイの大臣など約110人が出席。野村会長は「かつては30人程度の零細な町工場だったが、米国やタイ、中国に進出し、現在では海外拠点を含め200人を超える会社になった」と取引先など関係者に感謝の意を表した。野村会長は1995年に2代目社長に就任。日本を代表する特殊油圧シリンダーメーカーに育てた。

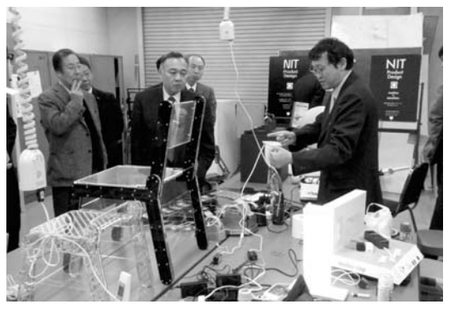
野村会長は南武の歴史を振り返り、2008年秋のリーマン・ショックに端を発した世界同時不況をくぐり抜けた経験に触れた。「09年2、3月頃は仕事の注文がまったく来なくなり、私自身は食道がんを宣告され、人生最悪の時だった」と述べた。精神的にも体力的にも追いつめられながら、中国への進出を決断した状況を思い出し、「資金的事情とチャイナリスクなどで社員や銀行などは反対したが、『犬も歩かないと棒に当たらない』と考え、積極的に行こうと思った。現在のところ中国事業は堅調であり、結果的に良かった」と振り返った。

最後に新社長の野村伯英氏があいさつし、「リーマン・ショックのような危機を共有できた社員とともに成長し続けたい。『退却するにしても、何をするにしても外を向いていないと駄目』という物事に対する前向きな父の教え、南武の原点を忠実に歩んでいきたい」と力強く決意を表明した。

「リーマン・ショック以降、仕事の注文がまったく来なくなり、私自身は食道がんを宣告され、人生最悪の時だった」…と振り返る野村会長

日本工大の細田研究室を訪問

NITEC埼玉産学交流会が12月例会



埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会（長谷川勉会長＝長谷川鉄工所社長）は2012年12月19日、埼玉県宮代町の日本工業大学で12月例会を開き、細田彰一同大学准教授の研究室を訪問した。

細田准教授の専門分野はデザイン。冒頭、長谷川会長は「デザインの重要性は近年高まっている。だが、我々中小企業にとっては苦手な分野。講義を楽しみにしている」と述べた。

細田准教授はまず、あるべきデザイナー像について説明。「〝受け取った人が喜ぶかどうか〟を設計する人がデザイナー。〝使ってみて感動した〟〝ついつい使ってしまう〟などと思ってもらうことを目指すべきだ」と強調した。このほか、使う人間の立場や視点に立って設計する「人間中心設計」の考え方も紹介した。

その後、参加者は細田准教授の研究室でさまざまな試作モデルを見学した（写真）。

賀詞交歓会に会員ら22人参加

NITEC埼玉産学交流会

埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会は1月16日、2013年新年賀詞交歓会をさいたま市浦和区の浦和ロイヤルパインズホテルで開いた。会員ら22人が参加。冒頭のあいさつで長谷川会長は「日本経済ようやく希望の光が見えてきた。今年こそいい年にしましょう」と呼びかけた（写真）。日本工業大学の波多野純学長は「今年もより、一層企業と大学の連携を深めていきたい」と新年の抱負を力強く話した。

参加者はフランス料理を楽しみながら、直近の経済動向について情報交換した。会の途中、ビンテージ・ビートバンド「ニキータ」が登場しジャッキー吉川とブルー・コメッツの「ブルー・シャトウ」やサザンオールスターズ「いとしのエリー」などを演奏。

参加者はリズムに合わせて手拍子し、生演奏を楽しんでいた。

いわき金属工業協組と新年会

いわき産業人クラブ

いわき産業人クラブ（菅栄蔵会長＝元常磐開発社長）は1月23日に、福島県いわき市のパレスいわやで「平成25年合同講演会・新年会」を開いた。いわき金属工業協同組合との共催で、会員ら約60人が参加した。

年頭にあたり菅会長は「東日本大震災後の福島県はいまだに厳しい状況にあるが、今年は目に見える形で復興が着実に進むよう、連携をさらに深めよう」とあいさつした。

講演会では、とうほう地域総合研究所の若狭新一郎事務局長が「最近の経済情勢から～何が起こっているのか、これからどうなるのか」をテーマに講演した（写真）。若狭事務局長は「今後も中国や東南アジア諸国連合（ASEAN）各国は経済成長を持続し台頭する一方、日本では少子高齢化の進行や輸出産業の不振、食料やエネルギー価格の上昇で貿易収支の悪化が予測され、厳しい環境が続く」とし、中小企業も世界的な視野での企業経営が求められると語った。

新年会には、渡辺敬夫いわき市長や地元関連団体の幹部らも出席し、震災からの復旧状況や景況などを話題に、同協組の村田信二副理事長（村田工業所社長）の閉会のあいさつまで情報交換した。

新春互礼会に400人が参加

大阪産業人クラブと滋賀産業人クラブ

大阪産業人クラブ（山口多賀司会長＝非破壊検査社主）と滋賀産業人クラブ（坂口康一会長＝近江鍛工社長）は1月22日、大阪市北区のANAクラウンプラザホテル大阪で合同で新春互礼会を開いた。約400人の参加者を前に、山口会長はアルジェリアで発生したテロ事件に触れて「砂漠はどこに行っても何もなく、逃げる場所がないだけに強い憤りを感じる」と話し、「明るく平穏な年であってほしい」と強調した。新政権にも「一日も早く景気が回復軌道に乗るために、意識した経済政策を打ってほしい」と期待感を込めた。

記念講演会は元ラグビー日本代表の大畑大介氏（神戸製鋼コベルコステイーラーズ・アンバサダー）が「為せば成る！」をテーマに、相次ぐケガに苦しみながらも〝トライゲッター〟として世界に名を響かせた現役時代のエピソードなどを紹介した（写真）。

田口隆久産業技術総合研究所関西センター所長の乾杯の音頭で始まった会では、会員同士がにぎやかに歓談する姿が会場各所でみられた。大畑氏には記念撮影を求める行列もできていた。

長寿企業の経営を学ぶ

つくば研究支援センターが新春講演会

茨城産業人クラブ会員のつくば研究支援センター（茨城県つくば市、矢口喜一郎社長、029・858・6500）は1月23日、法政大学大学院の久保田章市教授を招き、新春講演会「長寿企業の経営に学ぶ」をつくば市内で開いた。久保田教授は「1990年代以降、長寿企業も厳しい時代に入っており、積極的な経営革新と人材育成が必要になっている」と指摘した（写真）。

また、講演2部として、茨城県内に工場を持つ荻野工業（東京都墨田区）の荻野明社長が、創業から92年間の沿革と経営・技術についての考えを披露した。約100人が集まった。

つくば研究支援センターは茨城県や日本政策投資銀行、民間68社が出資する第三セクターで、つくば地区での産学官連携を中心とする研究開発支援組織。